

チーム医療

辻本 吉広*

せっかく働くなら楽しく働きたいというのは皆さん共通するところだと思います。仕事の何に楽しさや喜びを見出すかという、われわれ医療者にとって“患者さんがよくなるために”というのがまず根底にあることにはどなたも異論はないでしょう。それ以外には自分の思っていたとおりの治療で良い結果が出たり（やったあ）、自分の知識や技術が向上したときなども嬉しいですし（えっへん）、収益が上がって病院やクリニックの経営がうまくいったときに喜びを感じる（しめしめ）のも偽らざる本音だと思います。そんななか、私が最近一番喜びを感じるのはチーム医療に取り組んでいるときです。一人でできることには限界がありますが、ある目的のためにいろいろな人、職種が集まって医療を行うと当初想定していた結果以上の成果が出ることもあり、なんとも言えない達成感を感じます。でももっと楽しいのは、チームメンバーでワイワイガヤガヤと言いながら目的に向かって試行錯誤している段階です。

われわれが従事している透析医療はとくにチーム医療が求められている現場です。医師だけをとっていても内科医や泌尿器科医だけでなく、多くの合併症に対応するために多くの診療科が関わります。日々の透析治療そのものの実践には看護師、臨床工学技士が中心に活躍しますが、合併症予防や患者のQOLを充実させようとするれば管理栄養士、リハビリのセラピストなどの技術職や、医療ソーシャルワーカー、看護助手、事務職員、そのほか、なんと多く

* 愛仁会井上病院

の職種が関わっている特殊な現場であることかと改めて思います。私の所属している病院であれば、合併症対策としてフットケアチーム、骨粗鬆症チーム、睡眠時無呼吸症候群チームなどがあり、そのほかにも ICLS (immediate cardiac life support) チーム、ICT チーム (infection control team)、透析緩和ケアチームというのもあります。また透析に至っていない CKD 患者の腎機能悪化を阻止すべく CKD チーム、糖尿病透析予防チームなどが存在します。まだまだどのチームも完成形には至っていませんが、チームメンバーが生き生きと活躍しておりチームに活力があれば「まだこの病院、上を目指せそう」とワクワクした気持ちにさせてくれます。

そして真面目に取り組んでいたら、自分たちが楽しいだけでなくきっと患者にも還元できる良い結果をもたらせると信じています。そうやって自分たちも楽しみながら患者にも喜んでもらう。医療人としてこれに勝るものはなく、「やったあ」も、「えっへん」も、「しめしめ」も通り越した大きな喜びです。